

NPO 法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3

国分寺マンション B-03A

(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

2021. 7. 31 発行

ニュース

アイヌのむかしばなしについて

上森仲子 (旭川おはなしの会 北海道旭川市)

34年ほど前ですが、旭川市街地をとり囲むような型で新しい道路造りが計画され、それに伴って遺跡調査が行われました。家から遠くない所での発掘作業でしたので、時折りその作業を見ていました。

小学生の頃、スキー授業でスキーを楽しんだ小高い丘のふもと、この地に何があったのだろうかと土器や矢尻がでてくるたびに大昔に思いを寄せました。

北海道に居るとアイヌの人たちの生活を無視することは出来ません。旭川の歴史の中でもアイヌの人たちとの関わりは重要な問題です。

いつの頃から北海道で暮らしていたのか、どんな生活をし、どのように生計をたてていたのか、内外の交流や貿易等について、文字をもたないアイヌの人たちのことを知るのには難しいことだったと思います。

アイヌの人と共に生活しながら、言葉を理解し、日本語に変換して、語られていた昔話、神話、叙事詩等を本にしてくれた人がいて、私たちは少し楽に話を聞くことが出来るようになりました。

私は、アイヌの方と一緒に食事をして山菜や野菜の保存や食べ方を習い、山に行くと山菜やキノコ等の採り方、織物に使う木や薬草等を教えてもらいました。海に近い所で暮らしていたアイヌの人たちは漁についても深く考え、身も骨も皮もきれいに使っていたとのこと。

昔話、神話、叙事詩と何冊もの本を手にし語ってみました。難しいものがありました。とても楽しかったり、面白かったり、教えられたりと子どもたちに語り聞かせたい話が沢山あるので、何とかしようと、仲間と共に再話を勉強しました。今では少しずつですがアイヌの昔話を語る事ができています。そして、もっと多くの人たちに聞いてもらいたいと強く願っています。

「全日本語りの祭り」には第2回南陽市での祭りを除いて参加でき、第4回宜野湾市での祭りからは夫と一緒に参加です。第8回会津若松市から第12回南三陸での祭りは、語りの仲間が参加してくれましたので、おはなしの会としてもとても勉強になりました。その土地の言葉で語られた「おはなし」はとても心に残り、多くの方々との交流も、これからの活動の糧となりました。仲間が沢山いることは本当に嬉しいことですし、力強さを感じます。

コロナ禍ですが、保育園でのおはなし会は休むことなく続けてきました。ワクチン接種が少しでも早く済むといいですね。次回の祭りが楽しみです。

